# 雲鷹丸　第11次航（実習兼海洋調査）報告

大正3年3月11日　石川島造船所へ入渠、船底塗換其他小修繕、船体検査等を終り、出航準備成りて、

3月26日　品川沖に転錨す。

4月25日　農商務省嘱託員浅野彦太郎海洋調査の目的を以て乗船す。午前10時30分抜錨進航し、午後5時館山に寄港投錨して、上方円材等を陸揚し、汽走に便宜用意をなす。

4月26日　午前8時15分館山抜錨。10時大島北々東方約12海里に於て測深器使用試験を行ふ。11時再び進航を始め、午後5時30分神子元島の南方に至り停船して、予定第１点調査を行ふ。（各調査点位置は別表並に図上に載す）。6時38分終了して南進したるに夜に入りて北風吹来したるを以て、汽走を停止し帆走す。

4月27日　午前5時10分諸帆を納めて停船し、第２点調査を行ふ。7時終了進航し、11時20分藺灘波島の西南側約12海里に停船して第３点調査を行ひ、午後1時15分終了す。同時進航、午後6時16分第４点調査を行ひ、8時15分終了進航す。

4月28日　南西風強く波浪大にして僅かに１回の調査を得たるのみにして、終日帆走す。夜順風となる。

4月29日　順風帆走、予定点に於て２回調査を行ふ。

4月30日　午前4時順風止む。是より汽走し、予定点に於て３回調査を得、夜に至りて帆走に転ず。

5月 1日　午前4時より汽走し、３点に於て停船調査を行ふ。其夜天候不穏となり、午後9時大島に避難入港す。

5月 4日　午前2時大島抜錨し、同島沖合10海里の点より神子元島に向ふ線上に至り、予定の３点に於て調査を行ひ、日暮浜島に寄港し、三重県水産試験場と調査の打合並に用器検査を行ふ。

5月 5日　臨時水夫高橋秋三高度の熱性病に罹りしを以て、野呂医師を招き診断を続けしに、病名確定し難く伝染病と認められざるも、在船せしむるは患者の為め危険なるを告げられ、且つ若し伝染病と診断決定するに至らば、船内は特に伝染予防困難なるを以て、同医師に託し上陸せしめたるに、夜に至りて宿所主人より移転を請求せられ、処置に窮したり。幸にして三重県水産試験場長和智熊太氏の同情により、同場倉庫内に収容加療せしむるを得、且つ患者の家族に打電召喚して看護せしむるの手段を執りたり。

5月 6日　夜前記患者の処置を終り、夜半出港す。

5月 7日　天候不良の為め、針路を帰し、五ケ所浦湾口側に仮泊す。

5月 8日　午前0時半抜錨し、予定線上に至り３点調査を行ひ、夜帆走に転じて徐航す。

5月 9日　早朝より汽走に変じ、進航調査を継続し、予定各点を終り、午後7時半横浜港外

に仮泊す。

5月10日　早朝港務官並に検疫官の来船あり、浜島に残したる不明病症の患者に関する告白をなし、且つ和智技師に打電照会したるに、急性肺炎と決したる赴き返電あり。本船は特に検疫の要なきに決定したり。然し乍ら東京市内に於てペスト、発疹チフス等ありて不穏の時季なれば、此際船内駆鼠執行を策とすべき勧告を受けたるを以て、一応帰京し、本所に伺ひたる上実行すべき約をなし、午後2時40分抜錨し、4時半品川に入港す。

5月13日　所長の許可により、横浜に回航し、駆鼠法を行ふ。

5月14日　駆鼠終了、品川に帰着す。

右(上)及報告也

大正3年5月15日

雲鷹丸船長　浅利孝爾

水産講習所長　下　啓助殿

## 雲鷹丸　第11次航　乗組生徒名簿　本科 漁撈科 第3学年 乙組

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 桐本　冨次 | 佐々木孝造 | 佐藤　成美 | 岸田　十雄 | 邨井　捨吉 |
| 林　準二 | 谷口　武三 | 飯沼　寿 | 大沼　道一 | |

以上９名

## 衛　生　状　態

本航海は短時日なりしど、航海に馴れたる者のみなりしを以て、浜島に上陸せしめたる患者以外一同健全なりしも、生徒邨井捨吉は全航海の過半は船暈(せんうん)(注:船酔いの意)に苦しみ就床したり。